



◎内相の鳥取縣視察 鳥取市の震災状況視察のため西下した安藤内相は九月十二日午前二時といふ深夜まだ餘震消えやらぬ鳥取市に乘込み辛くも崩潰を免れた縣立圖書館で數十名の罹災者と合宿でしばしまどろんだのち午前八時には縣廳前廣場の天幕張りの知事室で武島知事から種々聴取したのち、東條首相ならびに内相からの見舞金を知事に贈り、全廳員を激勵したのち、市役所、中部第四十七部隊等を訪問、再び縣廳で今度市内各種團體議長等に重ねて訓示を行つた。

安藤内相談 人心も極めて冷靜なことは豫想以上で、罹災者も眞面目な心で私の見舞の言葉を受け容れてもらひ、慰める私が慰められた感じをもつた、また民防空の立場から平素の訓練がかゝる眼前の事態に對してどれだけ活用し運用され應急復舊の仕事に寄與してゐるか、その實情と實際を知つて非常に貴重な資料となり有意義であつた。

◎鳥取縣災害と地方行政協議會運営 安藤内相の鳥取における陣頭指揮と新設の地方行政協議會運用の妙と相俟ち、また各方面の強力なる援護により早くも鳥取地方の大災害に對する緊急對策は樹立された。

米その他主要食料品は相當長期間におよんでも不安のないまで確保された△青果物、魚、肉類も必要量の入手見込みがついた△乳幼児、妊婦の保護收容は優先的に行ふ△木炭、薪、石油の燃料はそれ／＼用意されてゐる△政府および姫路師團から相當多數の毛布が供給される△衣料切符はそれ／＼特配するが、その他ゆかた、タオル、モスリン、金巾等々の日用品を政府から配給する△味噌、醬油、鹽などの生活必需品にもこと缺かせない△住宅は廣島縣の資材、勞力供出による戦時型住宅十五棟六十戸をはじめ總計二百四十戸のバラツク建設を早急に行ふことなどを決定、中國、近畿兩地區の總力を擧げて鳥取復興に協力することになつた。

◎工學博士市原通敏氏 東北帝大教授、陸軍技師、工學博士市原通敏氏は高知縣の出身で八月十九日陸軍軍車輻試運轉中殉死せられたが、人間としての市原君は實に心の温い人であつた、接するすべての人の心を温めないではおかないやうな男であつた、研究は振り試験をやつてゐたが性質は實に眞直くなほがらかな人間である、この決戦の秋に市原君を失つた事は何としても口惜しくて堪らないことである、しかし君によつて直接指導されてゐた大學

や軍側の若い研究者たちが君の素志を受継いで君に酬いるところあるべきを私は信じて疑はないのである」

と的場東北大教授は語られたるが陸軍省兵器行政本部長木村中將も亦左の如く語られた。「大東亞戰爭の戰況は、いよ／＼苛烈の度を加へ、ますます／＼科學技術戰の色彩を濃くして來たが、このときに方り、市原博士は率先挺身我が陸軍の新兵器研究に従事中遂に殉職された、今や科學技術者に對する期待すこぶる重大なるものあるとき、單に陸軍としてのみならず、國家としまして大いなる損失である。この大東亞戰爭完遂のため、國家の有する科學技術の總力を結集し、速かに戰力化させる事は時局下最も喫緊のことであるが市原博士は夙に今日かくあるべきことを洞察し、軍の兵器研究に參畫され、その優秀にして眞摯なる研究は、軍の兵器進歩に寄與せらるるところ頗る大なるものがあり、この殉職は正に科學技術戰における名譽ある戰死である。希くはわが國の全科學技術者が市原博士の殉職を契機として一層奮起され、米英擊滅の一途に邁進せられんことを希望してやまない。

○貴族院議員永田秀次郎氏 元本會評議員拓殖大學々長永田秀次郎氏は九月十七日戰病死せられた享年六十八歳。

○近刊圖書雜誌 (寄附交換)

○三田學會雜誌 (第三七卷七號)

○河川 (第二卷九號)

雜 報

○民族學研究 (第一卷九號)

○東大陸 (九號)

○電氣通信學會雜誌 (第二七卷七、八號)

○都市公論 (第二六卷八號)

○都市問題 (第三七卷三號)

○興土 (第六號)

○況交通 (八月號) (渡邊幾治郎氏「明治諸功臣の東亞政策」)

○鐵道軌道統制會報 (八月號)

○斯民 (第三八編八號)

○警察協會雜誌 (第五一八號)

○土木學會誌 (第二九卷八號)

○自警 (第二五卷七號)

○科學技術動員 (第二卷八號)

○道路 (八月號) (松尾守治氏「關門附近道路交通の現狀及び將來に就て北九州道路交通問題座談會」)

○新京工業大學學術報告 (第一卷二號)

○宇都宮高等農林學校學術報告 (第三卷四號)

○支那ギルドに於ける行親の研究 (山内喜代美氏等)

○南方圈研究文獻 (彦根高等商業學校東亞研究所)

○大大阪 (第一九卷九號)

○發送電 (第三卷八號)